

風害編（木造・プレハブ）

調査票記入の手引き

1) 調査票記入にあたっての留意事項

- 1) 黒地に白抜きで数字の項目が現場で調査する項目です。「判定へ」等の指示がない限り、1から順番に全ての項目についての調査を実施します。
- 2) 白地の項目（調査日、調査員名、所在地、世帯主等）は事前に役場等で記入しておくとい良いでしょう。

2) 調査項目部分の記入

- 3) 「2. 住家」は、居住のために使用されている建物である場合にチェックを入れます。
- 4) 「3. 配置状況」は、これから判定しようとしている住家の範囲（居住の用に供されていると推定される部分）が分かるように記入して下さい。建物の外形を詳細に再現する必要はありません。

※判定する住家の範囲を確定した段階で、当該住家全体（外部から撮影できる全ての面）の写真を撮影し記録しておいてください。

- 5) 「4. 外観」は、該当するものがあつた場合はチェックをし、矢印に従って判定に進み、「全壊」にチェックを入れて終了です。
- 6) 「5. 傾斜」の計測の際の下げ振りの垂直部分の長さは120cmとしています。「5. 傾斜」の平均値が6cm以上の場合は、矢印に従って判定に進み、全壊にチェックを入れて終了です。
- 7) 「6. 屋根等」は、屋根等に脱落、破損等の損傷が生じておらず、住家内への浸水のおそれがない場合、チェックし、矢印に従って判定に進み、「準半壊に至らない（一部損壊）」にチェックを入れて終了です。
- 8) 「7. 躯体」における基礎の損傷率75%以上かどうかの判定において、目視調査により明らかに75%以上もしくは75%未満の場合には、損傷基礎長等の計測は不要です。75%以上かどうかを目視により判断できない場合にのみ計測を行ってください。損傷率が75%以上の場合は、矢印に従って判定に進み、全壊にチェックを入れて終了です。
- 9) 「8. 基礎」について、該当する損傷率の列の値（損害割合）に○印をつけてください。
- 10) 「9.（平面図）」では、各階平面図及び屋根伏図を記入します。平面図は「11. 外壁」～「17. 建具」において各部位の損傷箇所と損傷程度を記載し、被害の面積比率を判断するために利用しますので、各階の間取り図がわかるように記載します。例えば、ふすまや畳などを目安に、一マスを半間とすると書きやすくなります。1枚で全ての図面を記入できない場合は、コピーして使用してください。
- 11) 「10. 面積率」の床面積率と屋根面積率について、階別に判定した部位別損害割合から住家全体の損害割合を算出するために用います。「主要階」と「その他階」それぞれにおいて、面積率の合計が1.0になるように記入してください。

- 12) 「11. 外壁」～「17. 建具」について、左側の「主要階」の列は、主要階の面積を 100% とした場合の損傷程度毎の面積率、右側の「その他階」の列は、その他階の面積を 100% とした場合の損傷程度毎の面積率について、該当する箇所に○をつけてください。その際、面積率の合計は 100% を超えないようにしてください。

なお、面積率について、20%刻みで判定しづらいものについては、同一の損傷程度で複数の面積率の列の値に○をつけても構いません。（「～10%」の列の値とその他のいずれかの面積率の列の値に○をつけることにより、10%刻みで判定することができます）

各部位毎に、どの部分にどの程度の被害があったかについては、後から確認することができるよう、「10)」で作成した平面図に書き込んでください。

【主要階について】

※主要階とは、「1 階もしくは 1 階以外の階で台所・食堂・居間の全てを有する階」のことです。通常は 1 階が主要階ですが、例えば、3 階建住家の 2 階に台所・食堂・居間の全てがある場合、2 階を「主要階」、1 階と 3 階を「その他階」とします。

- 13) 「18. 設備」について、浴室、台所が存在する階と損傷の状況について該当するところに○印をつけてください。右側のその他の欄は、浴室及び台所以外の設備に被害があった場合に適宜、利用してください。
- 14) 「18. 設備」で調査終了です。「損害割合算出表」に従って計算し判定します。

3) 損害割合算出表の記入

- 15) 調査票－3 の「11. 外壁」から「17. 建具」までの各部位について、「主要階」、「その他階」別に○のついている数字の合計値を「計」の欄に記入してください。外壁、内壁、床（階段含）、柱（又は耐力壁）、屋根、天井、建具については、「計」に各階の床面積率を、屋根については、「計」に各階の屋根面積率を乗じて得られた値を B 欄（主要階）、C 欄（その他階）に記入して下さい。
- 16) 調査票－3 の「18. 設備」について、主要階、その他階のそれぞれの階にある設備の損害割合の合計を計の B 欄（主要階）、C 欄（その他階）に記入して下さい。
- 17) 調査票－1 の損害割合算出表の「b」列には 3 頁目の B 欄の値を、「c」列には C 欄の値を転記してください。
- 18) 「d」列は、「b」列の値と「c」列の値の合計値を小数点以下第 1 位で四捨五入した値を記入してください。なお、「d」列のうち「14. 柱（又は耐力壁）」の合計値が 11%以上となった場合、「判定」に進み、「全壊」にチェックを入れて終了です。
- 19) 「e」列は、「b」列の値に 1.25 を乗じた値、「f」列は「c」列の値に 0.5 を乗じた値を記入します。

※なお、各階の損害割合に乘じる係数（1.25 及び 0.5）は、一般的な住家として 1 階と 2 階の床面積比が 2 : 1 程度の住家を想定して、設定した係数であることから、住家の 1 階と 2 階の床面積比が、これと大きく異なる場合等においては、別途各階の損害割合に乘じる係数を設定することも必要なことと考えられます。

- 20) 「g」列には、「e」列の値と「f」列の値の合計値を小数点以下第1位で四捨五入した値を記入してください。ただし、「a」列に記載してある構成比を上回ることはいけません。「a」の値よりも大きな値となった場合は、「a」の値を記載してください。
- 21) 「d」列の合計値と「g」列の合計値を計算し、それぞれ「あ」、「い」に記載します。
- 22) 「5. 傾斜」が2cm未満の場合、「あ」又は「い」のうち大きいほうの値を「判定」の損害割合の欄に記入し、該当する被害の程度にチェックを入れて終了です。
- 23) 「5. 傾斜」が2cm以上であった場合のみ、「h」列を使用します。「あ」>「い」の場合、「d」列の値を、「あ」 \leq 「い」の場合、「g」列の値を「h」列に転記してください。「14. 柱（又は耐力壁）」及び「5. 基礎」の値は用いません。転記した値の和に15%を加えた値を「う」に記入します。「あ」、「い」又は「う」の値のうち最大の値を「判定」の損害割合の欄に記入し、該当する被害の程度にチェックを入れて終了です。